

「健康」の歴史性：「健康」「衛生」概念の歴史的変遷

今日、グローバル化や人為的な環境変化に伴う感染症の脅威が依然として存在する一方で、高齢化が進む先進諸国では現代医学による治療とケアの限界が見られるなど、人の健康をめぐる状況は複雑化している。本研究会では、「健康」がどのようにとらえられてきたのかを、歴史的に考察することを通して、今日の我々の「健康」のありようを再考すると同時に、新たな健康概念について検討したい。

日時・場所

2015年1月12日(月) 13:00~17:00 コーピン京都 2階 204&205号室

2015年1月13日(火) 9:30~12:00 地球研・セミナー室5

1月12日(月) 13:00~17:00@コーピン京都・204&205号室

門司和彦(長崎大学)「NIHU エコヘルス研究では何をすべきか：健康の人文的研究をエコヘルス・グローバルヘルスに」

中澤港(神戸大学)「健康と病気の社会的構築」

ハイン・マレー(総合地球環境学研究所)「ヨーロッパにおける“健康”の語源」

磯部裕幸(秀明大学)『ザニテート・ヒュゲーネ・ゲズントハイト』—ドイツにおける『衛生』と『健康』

趙菁(金沢大学)「近世の養生論における養生の目的の変遷」

市川智生(長崎大学)「日本における「健康」および「衛生」概念の翻訳と流通について」

飯島渉(青山学院大学)「日本住血吸虫症対策をめぐる日本・中国・フィリピンの関係(仮)」

1月13日(火) 9:30~12:00@地球研セミナー室5

福士由紀(総合地球環境学研究所)「中国における「健康」と「衛生」

脇村孝平(大阪市立大学)「南アジアにおける健康・病気・医療：古代史と近代史」(仮)

Alex BAY (Chapman U.) Health in History and Historiography

キム・ヨンス(延世大学)「韓国における「衛生」概念の変遷について」

*各報告時間は20分

*参加申し込み不要

問い合わせ先：
総合地球環境学研究所

研究戦略推進センター

福士 由紀

fuku@chikyu.ac.jp